

# 令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 鶴見区  
学校名 みどり小学校  
学校長名 森 健

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動をご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・学校では、第6学年 名

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

### [国語]

国語の平均正答率は6.9ポイントであった。全国の平均正答率6.7.2ポイントから1.8ポイント、大阪市の平均正答率6.6ポイントとから3ポイント上回る結果となった。正答率分布では、低位層が減り高位層のボリュームが増したことにより全国及び大阪府の正規分布を上回る結果となった。

### [算数]

算数の平均正答率は6.3ポイントであった。全国の平均正答率6.2.5から0.5ポイント、大阪市の平均正答率6.2ポイントから1ポイント上回る結果となった。正答率分布では、中位層と高位層の一部に大きく突出したゾーンが見られ、全国及び大阪府の正規分布の最大値のボリューム部分に凹んでいる分布となった。

## 分析から見えてきた成果・課題

### 教科に関する調査より

**[国語]** 学習指導要領の内容・領域・区分ごとにみると、「情報の使い方に関する事項」が全国及び大阪府の平均を下回るもの、それ以外の事項においては平均及びそれを上回るものになっている。また、「話すこと・聞くこと」「記述式の問題」においては、目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考え方と比較しながら、自分の考えをまとめることができる項目で全国の平均を上回っている。昨年度までに国語科の研究を進めてきた結果により学力の底上げが進んできていると考えられる。

**[算数]** 学習指導要領の内容・領域・区分ごとにみると、「数と計算」が全国及び大阪府の平均を下回るもの、それ以外の事項においては平均及びそれを上回るものになっている。また、「変化と関係」においては、伴って変わる二つの数量の関係が比例であることを用いて知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる項目が全国の平均を上回っている。今年度より研究教科を算数科にして取り組んでいるので、まずは基礎・基本の計算力の向上に取り組んでいきたい。

### 質問紙調査より

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができますか」の質問に対して肯定的な回答が81.4%と全国平均と同等の結果となり友達を通して学校の中でも多くのことを学んでいる結果となった。また、「困りごとや不安があるとき、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に対して肯定的な回答が71.1%と全国平均を上回り、子どもたちが安心して学校生活を送ることができることが分かる。

○「1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか」の質問では、54.8%の児童が1時間以下であった。そのうち半数が30分より少ない勉強時間であることから子どもたちに興味を持たせて自ら学習を進めていく自主学習に力を注いでいきたい。

## 今後の取組(アクションプラン)

- 学習習慣の確立、家庭学習の充実を図り、基礎学力の定着と学習意欲の向上を進めていく。  
(自主学習ノートの活用、読書習慣の形成)
- 習熟度別少人数指導の展開とデジタルドリルの活用により、個別最適化された学習を提供し基礎学力の定着及び学力の伸長を図っていく。
- 学習の中でさらにPCを活用して、調べ学習や発表を進めていく。
- これまでの低位層への学力向上の取り組みを継続するとともに、正答数分布の全体が高解答方向へとスライドするように学力向上の取り組みを進めていく。

## 【 全体の概要 】

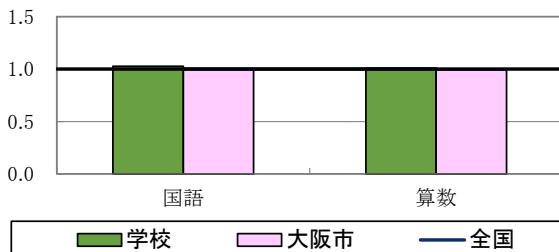
### 平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	69	63
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5

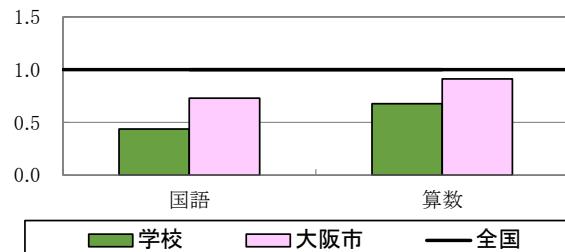
### 平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	2.1	2.3
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



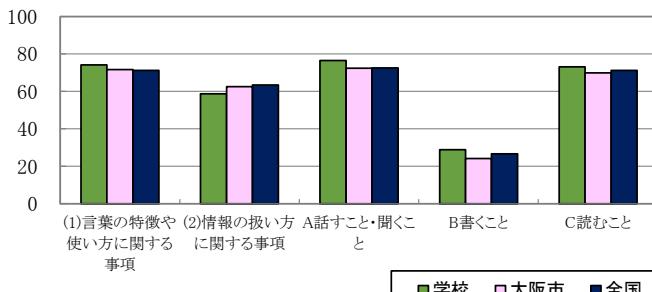
### 【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	74.1	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に関する事項	2	58.7	62.6	63.4
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	76.5	72.4	72.6
B 書くこと	1	28.8	24.2	26.7
C 読むこと	3	73.2	69.9	71.2

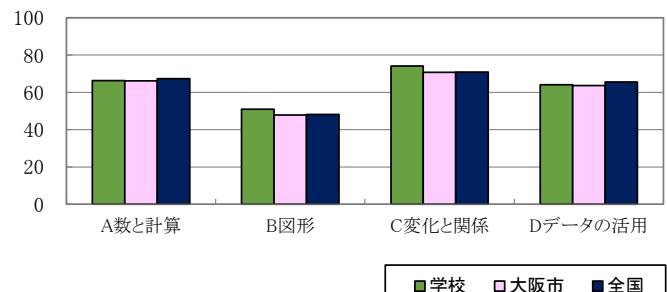
### 【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	66.3	66.1	67.3
B 図形	4	50.9	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	74.1	70.8	70.9
D データの活用	3	64.1	63.6	65.5

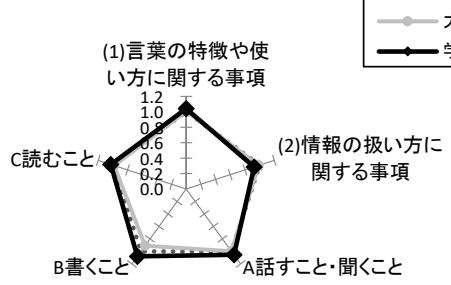
国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



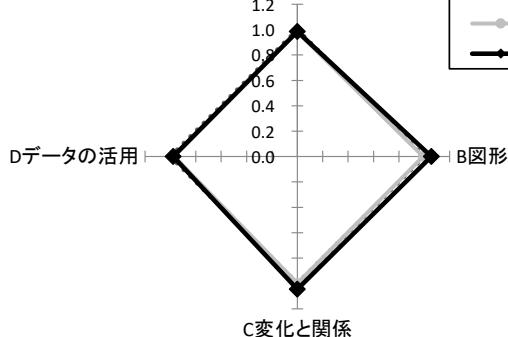
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)



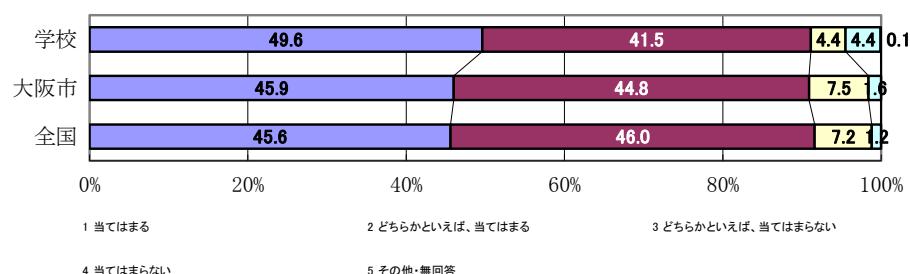
算数 領域別正答率(対全国比)



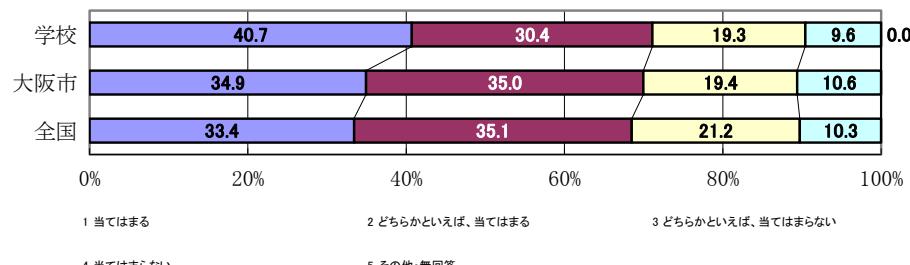
## 児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

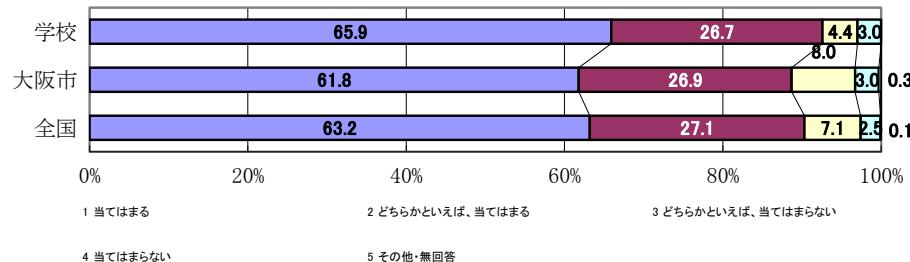
質問番号
質問事項
8
人が困っているときは、進んで助けている



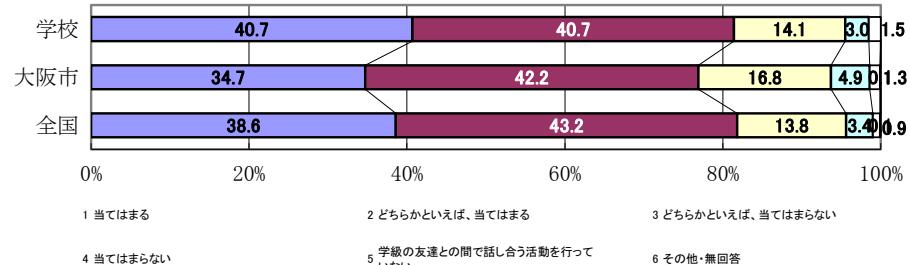
10
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる



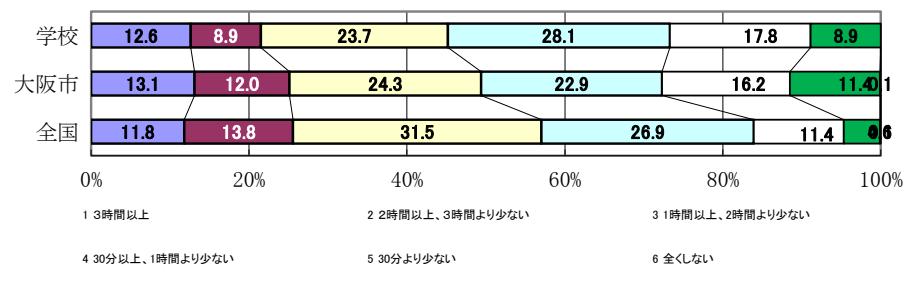
14
友達関係に満足している



36
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか



17
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含みます)



## 学校質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

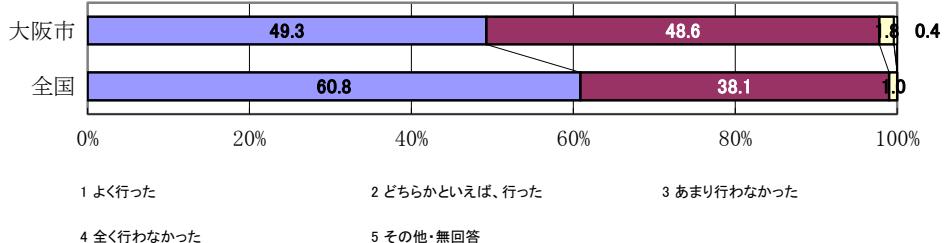
### 質問番号

### 質問事項

13

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った

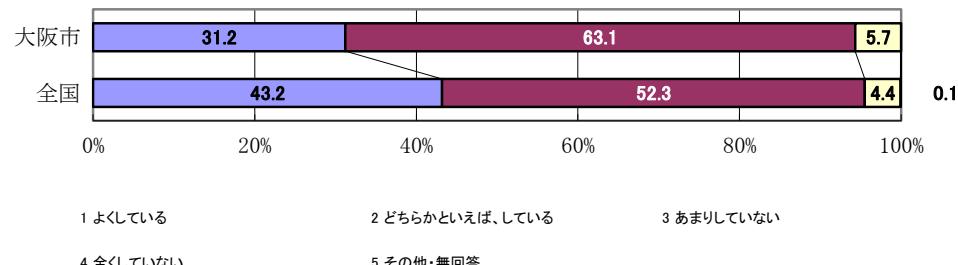
### 学校 「よく行った」を選択



20

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている

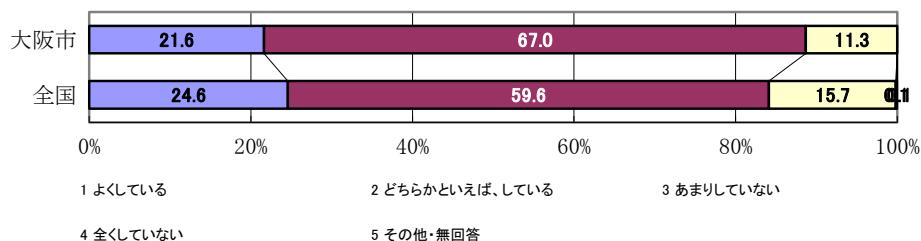
### 学校 「よくしている」を選択



24

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している(オンラインでの参加を含む)

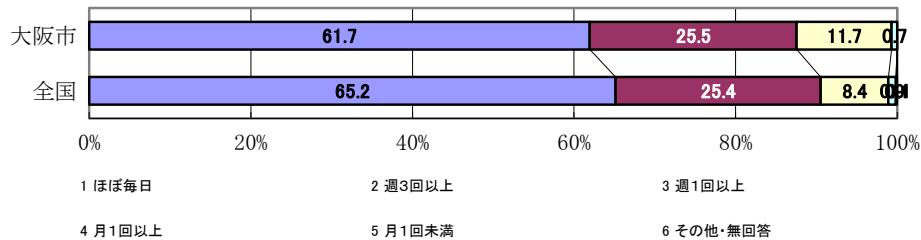
### 学校 「よくしている」を選択



55

調査対象である第6学年の児童に対する、前年度までのICT機器の活用状況として、あなたの学校では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

### 学校 「ほぼ毎日」を選択



72

保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか

### 学校 「参加している」を選択

